



カウンセリングだより

保育観察エッセイ④

はったつがみえるよ！

～ぶんがのこともたす～

キンダーカウンセラー
宮本 祐子

♪幸いにも、私はキンダーカウンセラーとして、子ども達の中に入って一緒に遊ぶことができます。毎月1回の訪問で、触れ合う時間は限られていますが、頻度が少ない分、子ども達の成長を感じられることが多く、毎回生き生きとたくましく変わっていく姿がとっても楽しみです♪

2 学期の相談日は
11/18(火)、12/16(火)
3 学期の相談日は
1/13(火)、2/10(火)
3/10(火)です。

木々の葉が赤や黄色に色づき、今年も紅葉の季節を迎えています。園では一番忙しい2学期の行事も、運動会・遠足・お芋ほりなどが終わり、作品展や音楽会の準備が始まっています。先日、年少さんクラスをのぞくと、入園当初は、あそびながらも、時折お母さんのことを思い出しては泣いていたお子さんが、元気にお友達と一緒にいままでごちそうを作って、ニコニコと「食べて」と持ってきてくれました。すっかりお姉さんの顔になっていて、満3歳になってクラスの仲間入りをしたお友だちが、着替えて手間取っていると、お手伝いもしてくれていました。別のクラスの満3歳で、年少クラスに入ったばかりのお子さんは、先月の時点では、緊張のあまりなのか行動が固まってしまっていて、なかなかスムーズにみんなと行動することも話をすることもできず心配でした。しかし2カ月近く経って出会うと、粘土あそびの時、自分の作ったものを積極的に私の方に向けて見せてくれました。クラスにもすっかり溶け込んでいるようでした。

年中さんのクラスでは、お友だちが好きでお友だちとあそぶのは大好きだけど、今までは自分の気持ちが先行してしまい、なかなかうまくあそべなかったお子さんが、お友だち数人と一緒にブロックで車を作り、作った車を各々楽しそうに動かしてあそんでいました。あそびの途中「〇〇くんが貸してくれない」と担任の先生に訴えていましたが『あれ、あなたもうこれ（ブロックの部品）を持っているじゃないの。クラスのおもちゃはみんなて使おうね。我慢しようね』と優しく諭されて、自分の持っている部品に目をやり、あそびの輪に戻って行ってしまいました。

年長さんのクラスでは、音楽会のためのメロディオンの練習をしていました。自主練習では、苦手なお子さんを得意なお友だちが「こうやるんだよ」と教えてあげていました。新しい環境に馴染むことや、お友だちとの関わりを学ぶことも、人それぞれペースや時期が異なります。また誰にでも得意なことと苦手なことがあります。子どもたちもいろいろ経験を積んでいく中で、得意なこと苦手なことを自覚していきます。年齢が上がってくると「できない」と思うと、苦手意識からどうしてもそこから避けてしまうようになりがちです。でも、どの子もできるようにはなりたと思っています。子どもさんによってその時期やペースは一人一人違います。子どもたちは大人が感じているよりもずっと繊細だと、いつも感じます。親御さんは先々を心配して「どうしてみんなと違うの？みんなできてきているのにどうして？」と、つつい周りやと比べてしまって、きつい口調で叱ってしまうことがあるのではないのでしょうか。子どもさんのことを、ただありきたりの言葉でほめたり叱ったりするのではなく、よく観察して、今、ここで本人が頑張っていることを上手にほめて、一緒にできるようになったことを喜んであげて欲しいと思います。

失敗しても自分は見捨てられることはない。自分は頑張れる。頑張ればなんとかできる人間だ、という自信（自己肯定感）をもつこと、少々大変なことがあっても踏ん張れるようになるという、一生を左右する心の土台は、幼児期に親御さんから惜しみない愛情を注がれることで培われていきます。愛されている安心感が土台となって、子どもたちはいろいろなことにチャレンジできるようになっていくのです。

キンダーカウンセラーとして、園を訪問させていただいております臨床心理士の宮本祐子と申します。普段は大学の付属機関の心理・教育相談センターで、主に就学前～中学生のお子さんについて、保護者の方々に、発達及び諸々の相談をしております。毎月1回、蛭池文化幼稚園にて、保護者のみなさまがお子さんとうまく関わったらいのかな～？など子育ての心配や、ご自分について、またお子さんのお友だち同士の関わりや園での生活の心配などの相談にのらせていただいております。費用の方は幼稚園で負担して下さいますので、保護者の方々の負担はありません。どんな些細なことでも「ちょっと聞いてみたいいな～」「こんなときどうしたらいいかしら」というときに、気軽にお越しください。（新館2階でやっています。相談ご希望の方は、クラス担任までお申込ください）